

アジア研究教育ユニット（特別経費）平成 30 年度教育研究報告書

事業課題名	復旦大学—京都大学—香港城市大学「東アジア人文研究討論会」
代表者名	平田 昌司 緑川 英樹
事業概要 (600 字程度)	<p>復旦大学文史研究院、京都大学文学研究科、香港城市大学中文及歴史学系の大学院生（主として博士後期課程）が中心となってワークショップを企画・運営し、東アジア人文学における次世代研究者のネットワーク形成をめざすもの。</p> <p>本事業「東アジア人文討論会」の由来は、2013 年に京都大学で開催された復旦大学とのワークショップに始まり、2017 年以降、香港城市大学も加入して現在は三校合同のかたちをとる。今年度は中国上海・復旦大学の主催により第 7 回をおこなった。</p> <p>本学文学研究科より派遣された計 13 名のうち、地理学専修、社会学専修、中国語学中国文学専修の大学院生 6 名が本事業の助成を受けてワークショップに参加し、中国語もしくは英語による研究発表をした。経費は主に参加者の渡航旅費、および発表原稿の校閲・翻訳にあてた。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>事前準備として、「予稿集」掲載論文を執筆するとともに、発表要旨を多言語版（英語・中国語・日本語）で作成した。</p> <p>3 月 18 日（月）に上海到着後、19 日（火）～20 日（水）の二日間、復旦大学文史研究院にて 9 セクションから成る「東アジア人文研究討論会」が開催された。人文・社会科学の多様な分野にわたる次世代の研究者が全セクションの研究発表（1 名あたり 20 分）を聴き、三校それぞれの大学院生が司会とコメンテーターをつとめ、中国語もしくは英語による学术交流をおこなった。</p> <p>本事業による派遣学生の発表題目は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉 琛佳「試論竹内好“近代的超克”論与“作為方法的亜洲”之關係」 ・黄 詩琦「吳宓的兩種追求：從其“青年时代”談起」 ・堀川 泉「School meals in Japanese public elementary schools: Relationship to local communities」 ・姚 逸葦「東亜社会中家庭關係和代際支持的變遷：基于 EASS2006 数拠的研究」 ・熊野 貴文「Multiscale geographies of shrinking cities」 ・谷本 涼「Simulations of current and future accessibility to nurseries in Japanese metropolitan suburbs」 <p>ワークショップ終了後、21 日（木）～22 日（金）には杭州市へのフィールドトリップを実施。良渚遺跡博物院、浙江省博物館、龍井村、靈隱寺などを見学し、中国江南地方の重要な都市である杭州の歴史・文化について理解を深めた。23 日（土）に全日程を終え、上海から帰国した。</p>



復旦討論會_「ワークショップ開幕式」